	摘要	10-1-3-2	10-1-9-6						10-1-11-4			10-1-11-5	
	測 定 箇 所			≽	↓		t ₄ † doc odd noo odd † 1						
	測定基準	図面の寸法表示箇所で測定。	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。						1 施工箇所毎			施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は20m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	1 施工箇所毎
	規格値	$\pm 30 \le 10$ $\pm 40 > 10$	±30	-20	-30	+30	-20	-100	-200	-200		H30	-200
	測定項目	部材 部材長0 (m)	基準高	厚さ t_1 ~ t_4	帽(内法) w	h A B	延 L<20m 卓	L ≥ 20m	m m	工 聋 颈		和 和	近
	校番 工 種	遮音壁支柱製作工	場所打函渠工						落石防止網工			落石防護柵工	
H		2	9						4			ıo	
-	妈	3工場製作工	6 R	<i>₹</i> ′′		Н			11 探	石鴨	書 防出工	江落石雪害防	<u></u> 박 H
	掛	道路改良	ロ海	路的	型				口浬	路改	型	- 道路改良	
	鱦	0. 河 盌 櫽	0.1浬	紹赈					01浬	怒鷹	:	0.	

単位:mm 摘 要	10-1-11-6					10-1-11-7						ア・み む1日 II	10-1-12-4			10-1-12-5					
测定简所					W ₁ W ₂					<u>-</u>	W ₁ W ₂		≥	_д	† 	L d s L W1 s	_	E	++++	в Д	ه آخ ا د
测定基準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2ヶ所。	1 施工箇所毎	基礎 1 基毎			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	1 施工箇所毎	基礎1基毎		全数			施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長40m	(Xtaom) 以下のものは 1 旭上固灯につき 2ヶ所。	1 施工箇所毎	施工延長5スパンにつき1ヶ所					1 施工箇所毎
規格値	±30	-200	-30	-30		∓30	-200	-30	-30	-10%		-2%	-30	-30	-200	+15	10	2	$h \times 0.5\%$	+30, -20	-200
测定項目	追 な り	延 長 L	基 幅 w ₁ , w ₂	編高のおり		おり	延長 L	基 幅 w ₁ , w ₂	羅 高 水 h	万村汉为 0	<i>∖</i> ₽−	長 雄 込 み 0	m m	e N P	延 長 L	間隔 w ₁ , w ₂	支 扩 a	柱 ねじれ b-c	倒 れ d	高 さ h	延 長 L
工	防雪柵工					雪崩予防柵工							遮音壁基礎工			遮音壁本体工				•	
枝番																					
₩	9					2							4			ις					
短	1 落石 雪	害防	끸 니			17落石雪	害防	니 니					12 関本	三韓工		173	神雄	# 11			
肿	n 道路的·	Щ				口道路改	具						口剌的	路改良		1 押	28 2	以良			
鷹	10 測 盤 屢					0. 酒 路 隱							01 浬 8	出際		10	器篇	E			

出来形管理基準及び規格値 裍 単位: 遲 橋面舗装等でコアー探取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。 占 緬 定 工事規模の考え 緎 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割[・] 測定。厚さは、片側延長200m毎¹ 1ヶ所コアーを採取して測定。 票 ※両端部2点で測定する。 基 定 緎 10個の測定値 の平均(X₁₀) 中規模以上 -15-10画 夲 個々の測定値 (X) 小規模 以下 斑 + 20 -30-45-100.25 6-中規模以上 HU 基準高▽ 15cm t ≧ 15cm 測定項目 聖 酆 世 単も 種 步道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工 步道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工 Н 枝番 米

經

計

瀘

4舗装工

22 維装

2 連路縣

2 酒路廳

4舗装工

2舗装

単位:mm	摘	10-2-5-9		10-2-7-4							10-2-9-4			10-2-9-4	
	測定簡所										W 1	\mathbf{w}_{z}	W ₂		Н
	測 定 基 準	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のちのは1施工箇所につき2ヶ所。	1 ケ別~ 1 池上園灯	1ヶ所/1階掛版	1ヶ所/ 1階掛版	1ヶ所/1 踏掛版	全数		全数	全数	基礎一基毎			1ヶ所/1基	
	規格値	+ 30	-200	±20	±20	±30	±20		±20	±20	—30	-30		設計値以上	
	測定項目	」	延 長 L	事 華	各部の厚さ	各部の長さ	各部の長さ	厚さ	中心のずれ	アンカー長	幅 \mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	高 さ h		設置高さ H	
	工種	排水性舗装用路肩排水工		略掛版工 (コンクリートエ)			(ラバージュー)		(アンカーボルト)		大型標識工			大型標識工(抽業共工)	√元 即《江·上·》
	枝番										1			2	
	≪	6		4							4			4	
	領	ら排水構造物	ΣН	ト踏乗	: 版 日						の 戦 雑	¥Н		6 壓貓	ăН
	掛	2 雛 郑		2 雛珠							宗罪 22	{		公雛共	Ķ
	響	10 三四路 關		10 浬 鋁	톭						01浬盤	濫		10 經路	星爆

-								× 0 7				
単位: mm	摘	10-2-12-5			10-2-12-5					10-2-12-6		
	測 定 箇 所	(ISIISISII	± →0 ⊕⊕ 0	T	t 3	W 1	t 1	h_1 h_2 ∇ t_5	8			P P P P P P P P P P P P P P P P P P P
	測 定 基 準	接続部間毎に1ヶ所	接続部間毎で全数		1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合					1ヶ所/1施工箇所		
	規格値	0~+20	-200		±30	-20	-30	-30		-30	-30	
	測定項目	埋 殼 深 t	近 長 L		五 皇 東 著	※厚さ t ₁ ~t ₅	※幅 w ₁ , w ₂	※高さ h ₁ , h ₂		m m	高され	
	工	ケーブル配管工			ケーブル配管工 (ヘンドホール)					照明工(昭明柱基礎工)		
	枝番	П			2							
	₩	2			2					9		
	锤	17	计属统	 星 監 日	21 河 22		型談工			17		
	肿	楽器 2	4		架課 2	4				楽器 2	4	
	臛	10 湮盤	[ლ		0.河烟路	· [標				0. 洒露	[編	

単位:mm 描 斑	其	10-3-3-3	10-3-3-3		10-3-3-3	10-3-3-3	10-3-3-3	
一	⊒	6 ************************************	8	00 \F		る 世 を を か	S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	
湖 定 基 進	+ A	各脚柱、ベースプレートを測定。	全数を測定。	全数を測定。	両端部及び片特ばり部を測定。	各主構の各格点を測定。	各柱及び片特ばり部を測定。 H:高さ(m)	
損 格 値	Ξ_	w / 500	# 2	0~5	$\pm 5 \cdots L \le 10m$ $\pm 10 \cdots$ $10 < L \le 20m$ $\pm (10 + (L - 20) /$ $10) \cdots$ 20m < L	L /1000	10··· H≦10 H··· H>10	
河 定 項 目	4	脚柱とベースプ レートの鉛直度 δ (mm)	部 ス A A A	孔の径 d	柱の中心間隔、 対角長L (m)	後 さいのキャンバー 立 及び柱の曲がり ほ (mm)	柱の鉛直度 δ (mm)	
— #		鋼製橋脚製作工						
林	Ξ Ξ							
⟨}	(က						
海	4	3工場製作工						
押	+	の橋梁下部						
篇	THE COLUMN TO TH	0.1						

_										1		_ ' '	といえて旧世			
単位:mm	× .	10-3-6-8														
一 班 班	7	w ₂ w ₁ w ₂ w ₁	_	hi			$ \begin{array}{c c} & & & \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline \end{array} $	h ₁ h ₁	W ₃ W ₃			4		hi ————————————————————————————————————	(a1: 橋軸直角方向) (a2: 橋軸方向)	Ĭ Į
東 井 寒		橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 協なきままがすが終れていては「諸教権	相致らかかい計画に フィース・「日日間支承便覧」による。													
相 格 値	<u> </u>	+20	-20	-10	-10	-50	-20	-30	-50	-50	+30	±50	$+10 \sim -20$	±20	1/50以下	
三 児 児 田	í	基準高 ▽	厚 な t	天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	天 端 幅 \mathbf{w}_2 (橋軸方向)	敷 幅 w ₃ (橋軸方向)	画 st h ₁	胸壁の高さ $ m h_2$	天 端 長 ϱ_1	敷 長 02	胸壁間距離 0	支間長及び 中心線の変位	女承部アン 5	ル ボ ル 平面位置 ト め	数 き アカーボ N-FLの 給直度 値	
 		橋台躯体工														
米	H K															
公	+	∞														
海	4	の橋山	ιН													
#	}	の権変	张下部	i												
谱	ELA,	2	温爐													

_							11111		FXU	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
■ 本 車 (Z: m) 車 (A: m)	10-3-7-9												
瀬 定 簡 所	W1 0.1	h	W ₂		+ - - - - - - - - -	K W₂ X		大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田		F1 T1	→	gt gt	
测定基准	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 十支年に、し、	文承(伊覧] による。											
規格値	+20	-20	-20	-50	-20	- 50	- 50	1+30	+20	$+10 \sim -20$	±20	1/50以下	
測定項目	△皇東賽	単なり	天 端 幅 w ₁ (橋軸方向)	敷 幅 w ₂ (橋軸方向)	u V	天	敷 長 02	橋脚中心間距離 0	支間長及び 中心線の変位	文承部アン4両画画	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	な さ アルーボ・ル・孔の 鉛直度 値	
校番 工 種	1	(重力式) (半重力式)											
⋘	6												
颜	C K 7	権財工											
- 神	の権勢	一能											
臛	0. 河路 🖟	運											

単位:mm	摘要	10-3-7-9											10-3-8-9				
	測定簡所	W.	\[\]	H the state of the	W ₂	* \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	h		1	機関中心問題機	中心線の変位 (a 1: 線車直角方向) (a 2 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				1	*\frac{1}{2}	- ***
	測定基準	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 ※社き取りではつけまが開発。	相級さル小の詳細については「垣崎間女承便覧」による。										橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
	規格値	± 20	-20	-20	-20	-50	-20	+30	±50	$+10 \sim -20$	±20	1/50以下	+20	-50	-50	—50	
	测定項目	☆ 単 乗	厚 さ t	天 端 幅 w1	敷 幅 \mathbf{w}_2	e A A	当 な	橋脚中心間距離の	支 間 長 及 び 中心線の変位	大 計画高 米	抜せ みンン 地カ 平面位置 手式	□ ル ト アンカーホ*ルト孔の 鉛直度	五 第 基	幅 w (橋軸方向)	e V	長さり	
	工	橋脚躯体工(ヨー・ハギ)											椿脚フーチングエ	(1 型・1 型)			
	枝番	2											1				
-		6											6				
ļ)	7 N												聚権			
-		- ∞ 権 §												然下智			
	灩	10	星鷹										10 浬 1	密 應			

単位: mm	摘	10-3-8-9				10-3-8-10				10-3-8-10				10-3-8-11	
	測 定 箇 所	E		w ₁	M ₂	A		中心線の変位	(a 1: 衛軸1月月月) (a 2: 橋軸方向) (a 2: 橋軸方向)	D []	Þ		中心線の変位 (a 1: 橋軸直角方向) (a 2: 橋軸方向)		
	測定基準	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。				橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。				主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合	
	規格値	±20	-50	-50		±20	+30	±50		±20	+30	+ 50		% + + 5 *	
	测定項目	☆ 単 乗	幅 \mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	u お		☆ 単 新 雅	橋脚中心間距離 0	支間長及び中心線の変位		基準高 🧸	橋脚中心間距離 0	支間長及び中心線の変位		現場継手部のすき間 81, 82 (mm)	
	工	橋脚フーチングエ (用型)	(H			橋脚架設工(1 型・エ型)	Ĥ ,			橋脚架設工(開规)				現場継手工	
	枝番	2				1				7					
	₩	6				10				10				11	
-	短	8麗	権 歴	-1		∞鑑重	権要	Н		∞麗劃	権理	Н		∞體重	X 権 財 工
	肿	の衝突	张 下 語			α 権彦	张 下 器			3橋巡	作器			こ 権で	K 下 ء
	臛	10 泗路	黑			10 河区	震			25 河 28	鷹			0. 湮敛	显耀

涃 単位: 10 - 4 - 5 - 100-4-5-100 - 4 - 3 - 9薬 币 緬 定 緎 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 定する。 一注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 8 を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 一注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覽参照。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測 だする。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 8 を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 票 減で 基 (H) (m) 図面の寸法表示箇所 支承全数を測定。 B:支承中心間隔 支承全数を測定。 B:支承中心間隔 定 悪 温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上 温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上 4+0.5鋼橋 鋼橋 $\frac{4}{1}$ + 0. $\frac{1}{1}$ × (B – 設計移動量 画 設計移動量 × (B-+10以上 +10以上 1/1001/300 $\begin{array}{c} +3\cdots \ell \leq 10 \\ +4\cdots \ell > 10 \end{array}$ LC 11 夲 Ŋ C コンクリート コンクリート 斑 쏀 梔 橋軸直角方向 橋軸直角方向 (m) 方向のずれ 同一支承線上の 可動支承の移動 可能量 注2) Ш 可動支承の移動 可能量 注2) 支承中心間隔 (橋軸直角方向) 可動支承の橋軸 支承中心間隔 (橋軸直角方向) 可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 橋軸方向 橋軸方向 可動支承の 移動量 注3) 可動支承の 移動量 注3) 据付け高さ 据付け高さ 相対誤差 部材長0 相対誤差 严 年1) 注1) 定 鰄 水平度下沓の 部材 水平度支承の 種 梁用高欄製 (鋼製支承) (ゴム支承) 女承工 女承日 Н 枝番 Ø 10 朱 3工場製作工 5鋼橋架設工 經 5鋼橋架設工 4 觸橋上部 4 觸橋 上部 丰 4 觸橋山部 21 函路縣 2 浬 鋁 櫽 の道路編 繿

h1		
	1プロックを抽出して測定。	
0~+30	1+3	+4
有 効 幅 員 w3	單	和正
	検査路工	
	ω 00	-L sat D
		上
	10	
	数 幅 員 w3 0~+30	有効幅員w3 0~+30 4 8 8 検査路工 幅 ±3

単位: 涃 攉 占 緬 (2) 3 定 (1) £ 緎 (2) 施工延長40m毎に図に示す。 子 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測 定。 辞 注)良好な岩盤とは、道路トンネル技 特 活準 (構造編)にいう地盤等級 A X にはBに該当する地盤とする。 中 プレストレ 施工延長40m毎に断面全本数検測。 両端部、 票 析全数について測定。 機方向タワミの測定は、フ シング後に測定。 桁断面 寸法測定箇所は、両 部の 3 ヶ所とする。 0:スパン長 基 定 鰄 かり プレート から10cm 以内 逥 $0 < 15 \cdots \pm 10$ $0 \ge 15 \cdots$ ± (10-5) -30mm以内 10 80容 0 斑 横方向最大タワミ Ш ≱ Ч 廽 庚 40 跮 瞓 궬 严 40 噩 跳 長長 1 \pm た パ ンパン 定 \neq 賉 付 吹 뺄 张 三 恒 抲 無 亖 7 種 ム桁製作] ロックボルトエ プレビ[、] (現場) Н 枝番 朱 S 4支保工 經 のプレビーム桁橋工 4支保工 丰 らコンクリート 椿上部 のトンネグ (Z < H Z) のトンネグ (Z ∢ t Z Z) 2 連路縣 2 連路縣 2 連路縣 瀘

_							出水が日往至十次の流出に		
単位: mm	摘	10-6-5-3						10-6-5-5	
	測 定 箇 所						(a) (b) (b) (c) (c) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d) (d		
F		7) u	が過	i 三 三 で	ン油をクエ点	- S	√/	合文に	TU
	測定基準	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mに つき 1ヶ所。	■(2) 早さ(4) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打穀長の終点を図に示すを点で遡	た。中間部はコンクリート打設ロー定。	(□) コンクリート打設後、覆エコンリートについて1打設長の端面(加端=0位置)において、図に示する	の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図	(1) / は40m / に 1 ヶ所、(2) ~ (3) / は100m に 1 ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2 ヶ所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規 格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工 厚の 3 分の 1 以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 果常土圧による覆工厚不足で、型枠 の据付け時には安定が確認されかつ別 途構造的に覆工の安全が確認されかつ別 途構造的に覆工の安全が確認されかつ別 途構造のに安工、ロックボルトの突 出。	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (又は 50m) にてのき1ヶ所、延長40m (又は	30m)以下のものは 1 脂上圖匠に2ヶ所。
	規格値	+20	-20	-50	設計値以上	_		-50	- 30
	測定項目	基準高▽ (拱頂)	幅 w (全幅)	高さh (内法)	厚さ t	延 長 L		w	世 な
	種	7 - V H + H	ı	l				H 4 H	
	Н	覆エコンク						床版コンク	
	枝番								
	₩	က						വ	
	短	ら腰	Н					ら腰下	1
	肿	9 4	ンギゥ	(Z	∢ ⊣ ∑	()		9 4)	/ 朱 イ (Z 女 H Z)
	灩	10 泗	型鷹					10 浬 8	生爆

_			
単位: mm	摘要	10-6-4	10-6-8-4
	測 定 箇 所		
	測定基準	(1) 幅は、施工40mにつき 1ヶ所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点 で割定。 コンクリート打設後、インバートコンクリートについて 1 打設長の端面 (施工雑手の位置) において、図に示す各点の巻厚測定を行う。	図面の主要寸法表示箇所で測定。
	規格値	100 100	±50 -30 -100 -200
	測定項目	幅 w (全幅) 厚さ t 延 長 L	基 簿 司 ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	枝番 工 種	インベート 本本 T 本本	坑門本体工
ŀ		4	4
-		のケンベートH	8 坑門工
-		ω ← ソ 水 → (Ζ ∢ ⊢ Σ)	ω ← ソ ∜ ψ (Z ∢ ⊢ Σ)
-		0. 河 铭 櫽	0.河炤嘿
L			

₽													
単位: mm	摘	10-6-8-5											
	定 箇 所												
	測	(ア) #モ											
	測定基準	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき 1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点① ~⑪において、厚さの測定を行う。											
	規格値	720	-50	-50	-20	_							
	測定項目	基準高 (拱頂)	幅 w (全幅)	高さh (内法)	厚 さ t	延 長 L							
	工種	工 操 6 6											
	枝番	伯											
	⋘	2											
-		8 抗門下											
-		0 ~ \ \ \		$A \vdash Z$									
	灩	2. 河 铭 廛											

単位: mm	歯	10-11-6-2						10-11-6-4				10-11-6-5		10-11-6-5		
	測 定 箇 所					Ч								t		
	測 定 基 準	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。							図面の寸法表示箇所で測定。					両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		
	規格値	±30	-20	-30	+ 30	-50		-20	-20	-20		設計値以上		設計値以上		
	测定項目	五 章 華 基	厚 さ t	内空幅w	内空高h	ブロック長 L		厚 さ t	h届 w	長 さ L		w 團		厚 c t		
	工種	現場打躯体工						カラー継手工				防水工 (防水)		防水工 (防水保護工)		
	枝番											1		2		
	⋘								4				വ			
	渔								※打構	紫土		は齢距の	6現場打構築工		# 築工	
	卌	二半日	2 触					日半日	巨触			二 共 回 無		二共同港	<u>‡</u>	
	鷹	10 道 8	温艦					10 三	01 泗 盤 飃				10		10	

単位: mm	摘要	10-11-6-5			10-11-7-2	10-12-5-2						
	測定簡所	+ <u>\</u>	k g	 	1	(地上機器部) (地上機器部)						
	測定基準	図面の寸法表示箇所で測定。			施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。延長:1施工箇所毎			接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】				
	規格値	-20	±20	-20	±30	-200		05+~0	-200			
	測定項目	高 さ h	m w	厚 さ t	○ 電 ★ 指	延長 L		埋 殼 深 t	延 長 L			
	工種	防水工 (防水壁)			プレキャスト躯体工	管路部) (管路部)						
	#	င										
-		6 5 場場	汀≢续		トプレキャスト權	: 然口						
}	章	三米口		, I I	二	- son II		27 電線共同簿20 電線共同簿上				
}	黨	01 浬 鋁	ლ		10河海螺屬				01			

単位:mm 摘 要	10-12-5-3	10-12-6-2								
測定簡所		$\begin{array}{c} t_3 \\ t_4 \\ t_1 \\ t_4 \\ t_5 \\ t_7 \\ t_7 \\ t_8 \\ t_7 \\ t_8 \\ t_8 \\ t_8 \\ t_9 \\$								
測定基準	接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。	17所毎 ※ は現場打部分のある場合								
規格値	30 H	30	-20	-30	-30					
测定項目	○經辦指	# [↑]	※厚 ox t 1~t 5	※幅 w ₁ , w ₂	※高 さh ₁ , h ₂					
工	プレキャストボックス工 (特殊部)工 (特殊部)	ドドイーボ								
枝番										
≪	n	0								
類	ら電線共同港工	9 付帯設は	備工							
栅	27 電線共同推	21 電線共同	叵鮭							
鷹	0 河路 廛	10 押鋁櫽								

								D T					
	展	-5						2-					
	雗	14-4						-14-4					
		10-						10-					
	版												
	類								1: 1				
	闬	9	} {		いっては、米田が			ы —	12 1				
	画 Thinh Thin							[.	⊥ <i>i</i> ↓				
		当 次 子 日 ナ 上 シ	V. 2.0	イン と H	い い が 業			則定。 端及び					
	#	また切割 は準高。 これ	貨端及 (Fの割。 2ヶ所/	なを残べ			2割ぐ近れ上型が運産。					
	増	舗装記 後の 単り 第一回 の 光光 の	曹	1 た、2 は、2	河河			ヶ所の 1年にた こして					
	侙	7 「現 「均削 基準」	中心線	n 年に の場合	11 2			10 起い 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
		m 単一後 の	画。	東 801 表 3。 る。	でる			80m 中 京 本 東 泰					
	~	1240年7	点となる	80日で	状出沼米			201、101、101、101、101、101、101、101、101、101、					
		厚塞バー様を	る順中。定心	帽延箇は長所	声となる			幅厚中はさ失					
値	平均の 測定値 (X ₁₀)	-2				mプ n7 <i>tMーyー</i> o)2.4mm以下 unit (足付き) o)1.75mm以下			(0			
格			6-	-21	-10			-3(- 5	-10			
1	個々の 測定値 (X)	<i>L</i> -				I							
								t.	*	Г			
	定項目	な 短削)	な がー1イ		1	田		1m4 70		南			
	灵	世	型 型 型 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関 関						路鏡日				
	種	H											
		1											
								与生工					
	H							 工 器					
	大 番												
Ж го						<u> </u>							
;	毎 4 無						4 維						
,	肿	7. 酒路	維炸					71 涸路线	靠				
	臛	0.河路	臛					01 测 盜 櫽					
	規格 値	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の (X ₁₀) 平均の (X ₁₀) 測定値 (X ₁₀)	章 節 条 枝番 工 種 別定項目 配々の 平均の 測定値 測定値 測定値 測定値 別定値 別 工	章 節 条 枝番 工 種 測定項目 価々の 平均の 測定値 測定値 測定値 測定値 測定値 別定値 期 定 基 準 測 定 番 準 測 定 番 事 14 4 5 切削オーバーレイエ 厚さ t (以) 一2 基準高の差」で算出す 「切削後の基準高とオーバーレイをの基準高の差」で算出す 10-14-4 路 装 「口削り (切削) 「一2 基準高の差」で算出す 「一2 基準高の差」で算出す 「イーレイをの基準高の差」で算出す 「日本・レイをの基準高の差」で算出す 「日本・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・レイ・	章 節 条 校番 工 種 測定項目 組 格 値 期 定項目 地 向 向 k 位 工 種 別定項目 地 向 的 定 基 準 消 定 面 所 摘 施 14 4 5 切削オーバーレイエ 「	章 節 条 校番 工 種 測定値 平均の 那 定 基 準 割 定 番 所 所 所 14 4 5 切削オーバーレイエ (X) (X ₁₀) 厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の 10-14-4 監 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	# 6 条 枚番 工 種 測定項目 個々の 平均の 測 定 基 準 測 定 簡 所 猶		2	1	2		

単位:mm	測 定 箇 所 10-1 10-1 1 型鋼桁 トラス数材			10-16-3-4	10-16-3-4				
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	w/2 1				
	基準	トラス・アーチ等	各支点及び各支間 中央付近を測定。 構造別に、5部材 につき 1 個抜き 取った部材の中央 付近を測定。		各支点及び各支間中央付近を測定。	主要部材全教を測定。 定。部材長 (mm)			
	測定	鋼桁等	主桁・主構	床組など	开	I			
	測定項目 規格値		±2… w≤0.5 ±3… w≤0.5 ±4… 1.0 <w≤1.0 麻組など<br="">1.0<w≤2.0 ±(3+w/2)… 2.0<w< th=""><th>w \ 200</th><th>6/1000</th></w<></w≤2.0 </w≤1.0>		w \ 200	6/1000			
				7ランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	フランジの直角度 δ (mm)	圧縮材の曲がり δ (mm)			
	T.		桁補強材製作工						
	基	<u>-</u> К							
	**	′	4						
	扫	3	3日帰戦	₩H					
	神	+	91 連路後	能					
	鷹	2	10 河呂櫽						